

診療科紹介：循環器科

皆さん、こんにちは。今回は**循環器科**をご紹介します。循環器科という名称にあまりなじみのない方のため、まずは当科が扱う主立った病気についてお話しをしておきます、いずれ劣らぬヘビー級です。

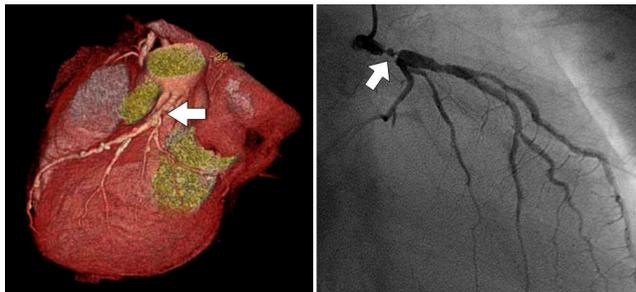
- **狭心症・心筋梗塞**：これらは、冠状動脈とよばれる心臓の栄養血管での“動脈硬化”が原因の病気です。血管が狭くなり血液の流れが悪くなってしまうのが狭心症で、階段を上ったり、重いものを持ったときなどに特徴的に短時間（2～3分）左胸が痛みます。この血管が血の塊（血栓）で突然閉塞してしまうのが心筋梗塞であり、冷や汗が出るような耐え難い胸痛が数時間続きます。心筋梗塞は直ちに救急車を呼ばないと、命を失うことになりかねない相当に怖い病気です。
- **不整脈**：これは、いわゆる“脈の乱れ”と呼ばれるものです。時々脈が“抜ける”程度のものから、100m全速疾走している最中よりもっと速く脈がうち始める“頻脈性不整脈”、逆に極端に脈が遅くなりふらついてしまう“徐脈性不整脈”などがあります。
- **心不全**：これは、心臓の中にある弁が“調子が悪くなる”弁膜症や、心臓の筋肉が“弱ってしまう”心筋症などを原因として、心臓が疲れきってしまう状態で、体に水分が溜まり、むくみや息切れがでるようになります。
- **動脈疾患**：これは、動脈硬化が原因の血管病です。大動脈の壁が弱くなり血圧にまけて膨らんでしまう大動脈瘤、なんと、その壁が裂けてしまう大動脈解離、足の血管が狭くなって歩くと足が痛くなる、閉塞性動脈硬化症などがあります。
- **高血圧**：これは皆さんよくご存じですね。でも高血圧を放っておくと知らない間に動脈硬化がすすみ、大事な心臓・脳・血管の大病をもたらします。その意味ではこれもとても怖い病気です。

かつて、聴診器と心電図・レントゲンのみで診断していた循環器疾患は、**心臓エコー、マルチスライスCT、心臓血管造影**など最新機器を駆使しての、鮮明な画像により直接的に診断されるようになりました。また、心臓外科医の“神の手”にすぎるしかなかった狭心症治療や、“薬漬け”する以外に手がなかった不整脈治療の多くが、**カテーテルを使った負担の少ない治療**で治すことが出来る時代となりました。**救急医療**も我々の戦場であり、直接“命”に関わる臓器ですので、迅速かつ正確な診断とそれに続く素早い治療という一連のプロセスが、まさに“命”となります。循環器科は、今や内科の中では**最も外科に近づいた診療科**です。有能な外科医が自ら扱う手術器具に“譲れないこだわり”をもち、手術の際の“効率的な流れ”が成績に大きく影響を与えると同じ事が、循環器科にもそのまま当てはまります。

心臓カテーテル装置などの診療機器は日進月歩の循環器診療に致命的な遅れをとることなく、その選定と配備は“診療チーム”が十分な時間をかけ検証し最適に実施されなくてはなりません。当科は新しい治療の施設認定などは県内でも最速で取得してきました。それを支える診断機器は、とても新しく血管造影装置はこの4月に更新されたばかりです。配備も病院管理部と事務方の先を見据えた判断により最適にレイアウトされています。

循環器科は大いに燃え上がり、外へ向かってますます伸びようとしています。どうぞ、ご期待下さい。

（文責：循環器科科長 高仲 知永）



マルチスライスCTで判明した左主幹部病変

心臓カテーテル装置での冠動脈造影

《編集後記》 新年度になりました。新たなスタートの季節ですね。当院にも、希望に燃えた若い職員がたくさん入ってきました。この若い力と共により良い医療を提供できるよう頑張っていきます！ 発行：広報委員会

ふれあい



いよいよメディカルバースセンターがオープンしました。メディカルバースセンターとは、「メディカル：医療」と「バースセンター：出産施設」を組み合わせることで当院が創った言葉です。助産師を中心に妊婦さんの主体的な出産を軸としながら、緊急時には医師が適切にサポートする体制を備えた施設がこの「メディカルバースセンター」です。

目次

- ◆ メディカルバースセンターオープン！
- ◆ 市民公開講座「よくわかる！心臓の病気」
- ◆ 診療科紹介：循環器科
- ◆ 編集後記

～ ご自由にお持ち下さい ～



メディカルバースセンターオープン!

鈴木康友市長のマニフェスト「こども第一主義」の一環として県西部浜松医療センターでは、助産師が中心となって妊娠からお産までをサポートし、妊産婦さんが主体的に出産できる「メディカルバースセンター（以下、バースセンター）」を平成21年4月から運用開始しました。このバースセンター構想は、「地域参画型」の母子に優しい新しいスタイルであり、市長を始め浜松医師会の先生方のご理解とご協力があってはじめて実現するものです。

バースセンターでは妊産婦さんの主体的なお産を目指し、助産師が女性の視点で妊娠初期から出産まで継続的に関わります。自然のリズムを尊重するお産は、出産した女性の満足感や達成感を生み、子育てへの不安が少ないと考えられています。バースセンターでのお産は、基本的に助産師が中心となって関わります。ただし、もともと合併症があったり、以前のお産に異常があったりした妊婦さんは、高リスク（異常が起こる危険性が高い）として最初から産科医が健診を行い、お産もバースセンターではなく、現在の周産期センターで産科医・助産師共同で行います。また、妊娠初期に異常がないと判断された妊婦さんでも、妊娠中に合併症が現れたり、何らかの異常が起きた場合も周産期センターでお産をすることになります。したがって、バースセンターでお産をするのは、産科医が診察を行い、妊娠初期・中期・後期いずれも異常を認めない、いわゆる低リスク（正常経過）の妊婦さんに限られます。産科医のチェックを受けるとき以外は、バースセンター内の助産師外来ですべて助産師が診察します。

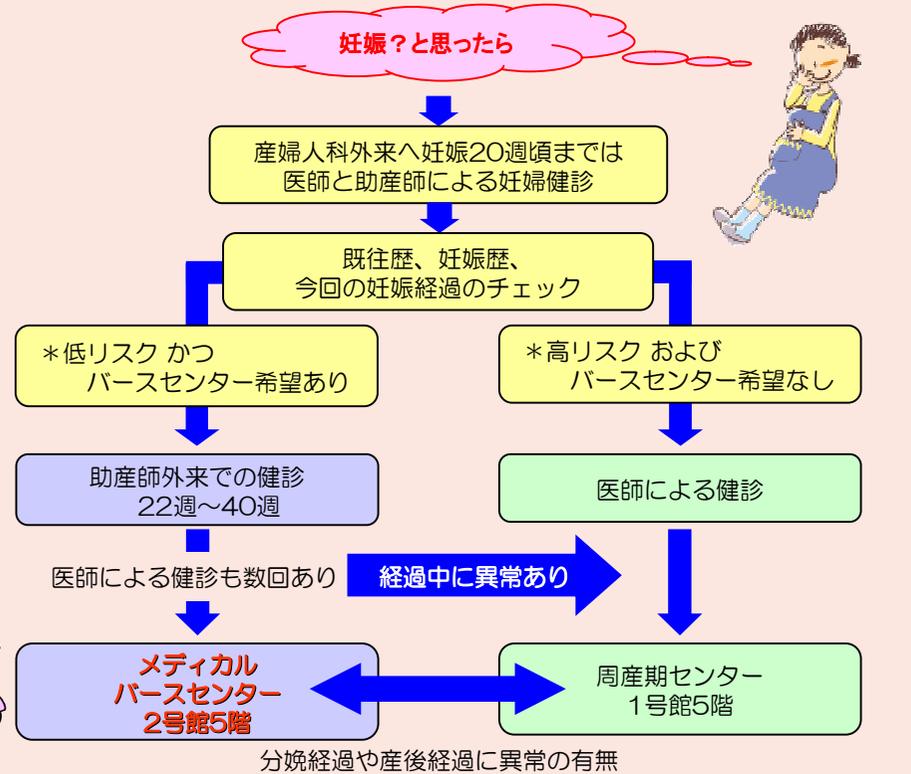
助産師外来ではリラックスして診察できるように配慮しており、またお産の時は新しいLDR室（陣痛から出産、回復まで家族と過ごせる分娩室）でご家族と一緒に出産となります。母児どちらかに異常がない限り、産科医や新生児科医は立ち会いません。しかし、医師は常に待機しており、いざ異常発生時には直ちに何らかの医療介入をすることになります。

周産期母子センターとバースセンターの組み合わせは全国でも先駆的で、周産期医療の理想的なシステムになると期待しています。われわれスタッフは、「浜松で産みたい、育てたい、住みたい」という声が聞こえるような、安心して子どもを産み、育てる環境の充実を、より理想的な産科医療の実践を目指します。バースセンターに導入する「地域参画型」は、子育てNPO、公的保健師、保育士、臨床心理士、地域の小児科、産婦人科などと連携してまち全体で妊産婦や子どもをサポートし、病院としてコミュニティの活性化に貢献できるようなシステムです。

(周産期センター長 岡田 喜親)



メディカルバースセンターで出産するには?



分娩経過や産後経過に異常の有無

※ 詳しくは、053 (453) 7111へお問い合わせください

市民公開講座「よくわかる! 心臓の病気」

心臓の病気をテーマとした市民公開講座を5月23日に開催します。平成20年4月からメタボ健診が始まり、メタボリックシンドロームへの関心が高まっています。悪性新生物（がん）に続き、日本人の死亡原因第2位である心疾患をテーマとして取り上げます。

心疾患の現状から最新の治療法、また心疾患の予防について、わかりやすく説明します。たくさんの皆さんのお越しをおまちしています。

日 時：平成21年5月23日（土） 14:00～16:30（13:30開場）
場 所：アクトシティ浜松コンgresセンター31会議室
定 員：330名（会場へ直接お越し下さい）

《 講演 》

- イントロ：「心臓のしくみと働きを知ろう」 循環器科 高仲 知永
- 講演 1：「狭心症・心筋梗塞とその治療」 循環器科 小林 正和
- 講演 2：「不整脈を治すためには・・・」 循環器科 武藤 真広
- 講演 3：「手術で治る心臓と血管の病気 一健康で活動的な生活を取り戻すためにー」 心臓血管外科 田中 國義
- 講演 4：「みんなで予防! 心臓病」 ヤマハ健康管理センター所長 倉田 千弘

※ 今回のテーマに対する質問をメールでお寄せ下さい

(Koho@hmedc.or.jp)

※ 当日会場にてAED（自動体外除細動器）の操作体験もできます

